2026 WINTER
Vol.491
1月号

Dokkyo Picks

獨協と未来の架け橋となる広報誌

獨協大学エクステンションセンターの挑戦
地域と共に成長し続ける

そうか産学行連携事業
草加市の魅力を発見し、商品やサービスの形で発信する

卒業生に聞く!
未来への羅針盤

CAMPUS NEWS

ぶらりらいぶらり

DOKKYO SDGs

DOKKYOとつながる

獨協大学エクステンションセンターの挑戦

地域と共に成長し続ける

お話を聞いたのは…

エクステンションセンター長
高橋 均（たかはし・ひとし）
法学部総合政策学科教授

地域に学びの窓を開き、学生とまちをつなぐ拠点

エクステンションセンターの事業は、オープンカレッジ、キャリア・ディベロップメント、地域連携の3つを軸に展開しています。年間2000名を超える受講生が参加するオープンカレッジは、主に社会人を対象とし、生涯学習講座を提供しています。オープンカレッジの前身である公開講座は、大学創立からほどなく始まりました。1970年には、本学の研究と教育を広く市民に紹介し、地域社会へ奉仕することを目的に、教養とコンピュータの講座がスタート。大学として地域に学びの窓を開く取り組みが、早くから本格化していきました。その後、講演会形式や講義形式の講座が次々と開講され、1993年には現在の「オープンカレッジ」という名称に統一されました。

草加市からは、大学創立時に多くの協力を受けると同時に、この地で生活を送る若い学生たちへの期待も寄せられていました。だからこそ、大学として地域へ還元し、その発展に寄与することは、本学の社会的使命ではないでしょうか。単に講座を開く場にとどまらず、学生と地域が交わる活動、自治体と協働する場づくりなど、大学が地域社会に開く窓として、エクステンションセンターの役割は年々広がっています。

現在は、草加市に限らず足立区や越谷市など周辺自治体からの参加者も多く、大学の学びを広域へと届ける大きな窓口となっています。また、キャリア・ディベロップメントでは、学生の資格取得や公務員志望者への支援を展開。予備校が近隣にない地域特性もあり、学生から好評を得ています。地域連携業務については、近隣の自治体と連携し、地域の活性化につながるような活動を実施。学生たちの若く斬新な感性で、地域資源を具体的に紹介し、地域の産業振興につなげることをめざしています。学生にとっては、実践的な経験を積めるチャンスであり、自治体や事業者にとっては、若い世代の率直な意見にふれ、行政サービスやマーケティングの参考にできる機会なので、双方にとってメリットのある取り組みです。

学生の挑戦がまちを動かす そうか産学行連携事業

地域連携事業の一つであるそうか産学行連携事業は、「市内産業の活力は、まちの活力」を基本理念に、草加市、草加商工会議所、本学が連携し、地域の課題に挑む実践型プログラムです。2004年から始まり、公募制で参加する学生たちが、毎年さまざまなテーマに挑戦しています。例えば、草加市内の企業PR動画の制作、駅前のまちづくりアイデアの発案など、学年や学部に関係なくチームを組んだ学生たちが、草加市の産業界や行政と共に取り組む点が大きな特徴です。

2023年度の「草加市再発見・和菓子編」の取り組みでは、学生が魅力に感じる地域資源として和菓子店を取り上げ、パンフレットを制作しました。学生が店を回って取材し、写真撮影からキャッチコピー、デザイン案まで担当。産業界の方からは、魅力が伝わるデザインの工夫点などさまざまなアドバイスが出て、さらに「この経験を学生時代の活動実績として就職活動に活かしたらどうか」といった提案までしてくださいました。産業界や行政のみなさんから、学生の社会的成長を後押しする助言をいただき、産学行連携の強みを感じた出来事でした。

本プログラムで大切にしているのは、学生の主体性です。友達に誘われたから、というきっかけであっても、取り組みを終える頃には必ず、「参加して良かった」という声を聞くことができます。初対面の学生同士がチームを組み、ひとつの成果物をつくりあげていく経験は、サークル活動やアルバイトとはまた別の実践知が得られると感じており、今後も連携事業を強く推進していきたいと思っています。

▲ 2025年で11回目を迎えた「子ども大学そうか」の入学式

また、草加市との共催事業である「子ども大学そうか」は2025年で11回目の開催となりました。市内の小学5・6年生50名が「学生」として、本学キャンパスなどで全5回の授業を受けるプログラムです。私が担当した授業では、私のゼミ生もサポート役として参加し、「会社を作ってみよう！」という課題を実施。小学生たちが思い思いの会社を立ち上げるプロセスに学生が寄り添い、アドバイスしながら進行を支えました。小学生は、大学キャンパスでの学びに真剣に取り組んでいましたし、学生からも「小学生の真剣さに刺激を受け、自分自身の姿勢を見直した」という声が相次ぎ、社会に出る前に自身を振り返る良い機会になったと感じます。

サステナビリティを軸に描く 学びと地域の未来

地域や社会とのこれからの関わりで欠かせないのは、サステナビリティの視点です。どんな取り組みでも1回で終わってしまうのではなく、5年、10年と継続し、地域とつながり続ける仕組みをつくることが大切ではないでしょうか。それこそが、本学が社会に開かれた存在であり、社会に還元する使命を持つことの可視化につながると思います。

その一環として、オープンカレッジをより進化させていきたいです。語学や文化講座といった従来の人気分野を維持しながら、社会科学領域では、今の社会を映し出す講座を積極的に取り入れていきたいと考えています。例えば、ポピュリズム、国際政治、経済の変動、法律の最新トピックなど、現代社会の動きをタイムリーに反映した講座を設置し、多くの人が「いま知るべきこと」を学べる場にしていきたいです。学生にも豊かな学びや経験の場を還元しながら、これまでと同様、地域との相乗効果を生み出していきたいと考えています。

INFORMATION

地域に開かれた、大学の知の拠点 エクステンションセンター

エクステンションセンターは、獨協大学の研究と教育を広く地域社会に開放する窓口です。主に社会人向けのオープンカレッジ（生涯学習講座）の企画・運営を行っています。講義講座は哲学・芸術・歴史・法律・環境・医療など幅広い分野で開講、外国語講座は9言語、講義講座と外国語講座を合わせて100講座以上があり、年間2,000人以上が受講しています。

[オープンカレッジの詳細はこちらから]

オープンカレッジの受講募集は、春期と秋期の年2回です。講座内容やお申し込み方法については、大学HPでご確認ください。

[オープンカレッジ特別講座を開催します]

テーマ：「半導体」がなぜかくも注目されているのか
—米中摩擦とAI開発競争の行方—
（テーマは変更になる可能性があります）
日時：2026年3月21日（土）13:45～16:00
場所：東棟E-102教室
講師：小林哲也（経済学部経営学科 教授）
受講料：無料／受講定員なし（事前申込制）

そうか産学行連携事業

「草加市の魅力を発見し、商品やサービスの形で発信する」

獨協大学×おーぐぱん

＼草加市内で人気のパン屋さん／

地域の名物パン屋と新商品を開発！

（写真右から）
[redacted]さん
[redacted]さん
リーダー[redacted]さん
[redacted]さん

▲ 8種類のパンを共同開発。

草加市内のパン屋「おーぐぱん」と学生たちが協働して、8種類の新商品を開発。草加商工会議所まつりで販売し、企業の販売活動の創出やPR活動にもつなげます。

チームの意見をまとめ、おーぐぱんさんや大学とやりとりする中で、相手に伝わりやすい言葉選びや丁寧な対応を意識。大学で学んだコミュニケーションや表現の大切さを活かせました。試作をまとめる際や、販売当日の説明には、授業でのプレゼンテーション経験が役立ちました！（リーダー[redacted]さん）

新商品を紹介するポスターや販売ブースに飾るPOPを制作。商品の魅力をより伝えられるデザインや表現方法を工夫しました。プロジェクトを通して学んだのは、物事を進める際には段取りや計画性が大切であるということ。また、多くの人が関わっていることへの感謝の気持ちも持てるようになりました。（[redacted]さん）

草加商工会議所まつりでの販売だったので、家族連れなどが対象になることを想定して新商品を企画。見た目のかわいさや、もっちりした食感を意識しました。草加市の特産品を使うことにもこだわりました。私たちの企画をおーぐぱんさんが専門家の視点でアドバイスしてくださり、想像以上においしくなりました。（[redacted]さん）

おーぐぱんさんから「試作品への意見はどんどん言ってほしい」と言われたので、感じたことを率直に伝えられました。お互いの意見をしっかりと聞き、取り入れていく大切さを学びました。販売当日はおーぐぱんさんと獨協大学の名前に足を止めてくれる方も多く、2時間半で完売しました！（[redacted]さん）

▲ イベント当日は大盛況で、たくさんの方が購入してくれました。

獨協大学×株式会社フクイ

＼草加市で創業91年のチョコレートメーカー／

松並木をイメージしたチョコレートを開発！

（写真右から）
[redacted]さん
リーダー[redacted]さん
[redacted]さん
[redacted]さん

▲ 草加松原の松並木をイメージしたチョコレート。

草加市で創業91年となるチョコレートメーカー「フクイ」と協働し、草加松原の松並木をイメージした「そうかチョコ煎ばー 抹茶味」を開発。草加煎餅「丸草一福」の割れ煎も活用し、草加の名産が詰まった一品に。

草加市をアピールするチョコレートとして、草加松原の松並木を表現するために、抹茶を使うことにこだわりました。「抹茶の下をチョコ付けすると松の幹のようになる」というフクイさんのアドバイスに、専門家の視点の的確さを実感。伝えるべき意見や情報、準備するものなど、計画を構造的に考えられるようになりました。（リーダー[redacted]さん）

一つの商品は、さまざまな人の関わりで作り上げられていることを実感。また、フェアトレードのカカオ原料を積極的に使っているフクイさんの話を聞き、学部で学んだ社会での企業の役割や、SDGsなど環境学を生きた学びとして吸収することができました。将来、商品開発に携わりたいという目標もあるので、今回の経験を活かしたいです。（[redacted]さん）

草加市の文化や伝統を一方的に見せるのではなく、地域の人が大切にしているものは何かを理解する姿勢が大切だと実感。草加せんべいの歴史や地元の人が持つ草加への誇りを知ることで、商品開発に深みが生まれました。特に、学科で学んでいる異文化理解の視点が活きたと感じます。他者の考えを尊重し、柔軟にアイデアをまとめる力が磨かれました！（[redacted]さん）

自分たちで作成したパッケージに企業や大学のロゴを入れようとしたところ、掲載許可をとる必要があることが分かり、手続きの重要性を感じました。「こうしたい」がすぐ形になるわけではなく、コストや販売ルールなど現実的な問題にも向き合う必要があることを学びました。限られた時間の中でどう工夫すれば、より良いものが作れるかを考えることで、問題解決力も向上しました。（[redacted]さん）

▲ 販売を通して、地域の方と関わることができました。

本誌に載せきれなかった記事をnoteに掲載しています！ぜひご覧ください！

note

卒業生に聞く！

在学生 × 卒業生

未来への羅針盤

Compass to the future

Vol.41

全力で「好き」に向き合う情熱が人生を変えていく

NPO法人産学プロジェクト 代表理事
株式会社office57 代表取締役
西宮 秀和さん
（経済学科 2011年度卒業）

大学3年次、東日本大震災をきっかけに将来を真剣に考えるようになり、いずれ起業しようと心に決める。ゼミの指導教員との出会いや、学生時代に打ち込んだ総合格闘技で鍛えた「やり抜く力」が、人生の基盤になっている。

各業界で、時代をリードする存在として活躍する卒業生にインタビュー。今回は、企業と大学をつなぐ場をつくり、産学連携でフードドライブや寄付などによって地域の子どもたちを支援するＮＰＯ法人を立ち上げた西宮 秀和さんにお話をうかがいました。

西宮さんが代表理事を務めるＮＰＯの概要を教えてください。

２０２４年11月にＮＰＯ法人産学プロジェクトを立ち上げました。以前から、中小企業と大学などとの連携を通して、地域社会に還元する仕組みをつくりたいと考えていたからです。企業・大学と社会のどちらもが価値を生み出せるような設計にしています。

具体的にはどのような取り組みをしているのですか。

中小企業の経営者を対象としたビジネス交流会やイベントを開催し、その収益を地域の子ども支援活動や寄付に充てています。獨協大学とも共同で、子ども支援イベント「希望の芽プロジェクト」を開催。私が在学中に所属した山下ゼミの学生さんたちに企画や運営に関わってもらい、「子どもの貧困問題」をテーマとして、地域の子どもたちや保護者の方と一緒に考えるセミナー、家庭や企業で余っている食品を持ち寄ってもらうフードドライブを実施しました。集まった食品は、草加市で活動する「フードパントリーひろっぱ」さん、「ふーどぱんとりーＢｅｌｉｅｖｅ」さんを通して、地域の子どもたちやご家庭に届けてもらっています。

どのような経緯で「産学プロジェクト」がスタートしたのでしょうか。

原点はゼミの指導教員である山下先生との出会いです。正直なところ、大学時代の私は真面目な学生ではありませんでした。プロ選手をめざして総合格闘技に打ち込んでいて、勉強よりも朝晩の練習を優先するような生活で……でも、先生はそんな私を、「やりたいことに一生懸命がんばっているから」と、温かく見守っていてくれました。当時の私にとって、山下先生は「いい大人」という存在でしたね。そんなこともあって、大学卒業後も先生との関係が続きました。仕事や将来について折に触れて相談に乗っていただき、先生のアドバイスで社会人大学院のマーケティング分野で修士課程（ＭＢＡ）を修了。そうやって学び続ける中で、中小企業の規模でも、利益と社会貢献を両立できる〝ゼブラ企業〟のモデルを実現したいという想いが膨らんでいきました。そこで、山下先生の力もお借りして、中小企業と大学をマッチングさせ、社会貢献につなげる取り組みとして、「産学プロジェクト」を企画することになったのです。

活動で大変なことと、やりがいを教えてください。

大変なことは、人的資源が足りないという点です。ＮＰＯの活動は、基本的に私ともう一人の理事が中心になって行っています。私はマーケティング企業も経営しているので、その業務と両立させるのはかなり大変です。しかし、ＮＰＯの活動を通じて多くの人と出会い、応援してくださる企業や大学関係者の皆さんとのつながりが生まれることに活動の意義を感じられるのも事実です。また、獨協大学の学生たちと一緒に運営に携わる中で、彼らが少しずつ成長していく姿を見られるのは大きな喜びです。最初は人とコミュニケーションを取ることが苦手だった学生が、イベントで経験を積むうちにたくましくなり、1年経ってリーダー的な存在になっていったことも。若い世代が努力して成長していく様子は、自分のことのようにうれしいですね。

学生時代に取り組んだことは、現在のキャリアや生き方にどのようにつながっていますか。

「一度やると決めたことは、何があっても真剣にやり抜く」という姿勢は、学生時代から今までずっと変わりません。たとえ遊びのようだったり、一見、無駄に思えるようなことでも、本気で取り組めば、必ず自分の経験や財産になると考えています。私は、学生時代に本気で打ち込んだ格闘技を通して、物事に取り組む胆力、モチベーションを維持する力、そして自分の活動を心から好きでいられる価値観の３つを得ました。これらは仕事やＮＰＯの活動において欠かせません。どんなことも最初からうまくいくわけではありませんが、まずはチャレンジしてデータを収集・分析し、経験やスキルを蓄積していきながら、徐々に成功していくようになるのだと思います。

今後の目標を教えてください。

目標は、企業利益と社会貢献を両立させる〝ゼブラ企業〟を増やすために、産学プロジェクトの活動を継続させ、浸透させていくこと。中小企業こそ、社会課題に取り組んだり、地域に貢献したりすることが大切です。また、企業との連携を模索する大学が増えているという現状もあります。私は、起業して自社の経営を担いつつ、大学院でマーケティングをアカデミックな側面から学んだので、こうすればうまくいく、という理論を実践に落とし込むことができます。企業と大学が連携した社会貢献への取り組みは、ＳＤＧｓや社会課題について学んできている若い世代にも響き、進学や就職を検討する理由にもなると思うので、この活動を強く推進していきたいです。

AFTER TALK

▲ 中小企業の経営者を対象としたビジネス交流会の様子

今を大切にすれば道は開く!

学生の皆さんに知ってほしいのは、学びはいつからでも始められるということ。大学生のうちにやりたいことが見つからず、学び方がわからなくても、私のように社会に出てから再び学び始めることも十分可能です。まずは目の前のことに真剣に取り組んでみる、そして出会いを大切にしてみてください。

本誌に載せきれなかった記事をnoteに掲載しています! ぜひご覧ください! note

DOKKYO CAMPUS
NEWS
2025, WINTER

2025年度父母懇談会（学内会場）開催

NEWS イベント［行事］

10月18日、父母の会主催による父母懇談会が天野貞祐記念館大講堂で開催され、来校とオンライン合わせて405名の父母および保証人が参加した。

父母懇談会は「全体会」「学部学科別懇談会」「懇親会」の3部構成。希望者には学生による施設見学ツアー、職員による個別相談が実施された。来場者からは「学長の話、キャリアセンターの話がどれもわかりやすくてよかった」、「内定取得学生による体験談がとても良かった」という感想が寄せられた。短い時間であったが、父母および保証人同士、また教職員との貴重な交流の場となった。

2025年度「子ども大学そうか」第5回講義・修了式実施

NEWS イベント［行事］

10月25日、コミュニティスクエアで「子ども大学そうか」の5回目の授業と修了式が行われ、草加市内の小学5・6年生41名が参加した。

経済学部経済学科 秋本弘章教授が「身のまわりの地図をつくってみよう!」をテーマに授業を行った。

地図の歴史や役割について学んだ後グループごとにオリジナルの地図を作成した。宿題で写真撮影した草加市内の場所が、地図のどこに位置しているのかを話し合いながら、地図に写真と場所の名前を貼り付け、一言コメントを書き込んだ。最後に、保護者の前で作成した地図についてグループごとに発表した。

修了式では、子ども大学副学長である山本草加市教育長から一人ひとりに修了証が渡された。「子ども大学そうか」の全5回の授業を振り返り、子ども大学で学んだことを今後に役立ててほしいと述べた。

学生食堂リニューアル

NEWS ご案内

2026年4月、35周年記念館2階の学生食堂が新しく生まれ変わります。ヘルシーな料理から世界の味まで、毎日通っても飽きない多彩なメニューを用意します。また、すべての券売機を電子マネー対応にリニューアルし、よりスマートにご利用いただけます。キャンパス内の憩いの場として、仲間と語らうランチタイムを楽しんでください。

「毎日通いたくなる学生食堂」が、皆さんのキャンパスライフを彩ります。新しい学食をぜひ体験してください。

※写真はイメージです

アダム・ミツキェヴィチ大学およびポツダム大学と新たに学術交流協定を締結

NEWS ご案内

アダム・ミツキェヴィチ大学（ポーランド）

ポツダム大学（ドイツ）

本学は、6月10日付でアダム・ミツキェヴィチ大学（ポーランド）、9月10日付でポツダム大学（ドイツ）との学術交流協定を締結した。これにより、ポーランドにおいては本学初の協定校となったほか、ドイツにおける協定校は14校となる。

第36回獨協インターナショナル・フォーラム開催「東アジア識字研究の現在―その到達と課題―」

NEWS イベント［行事］

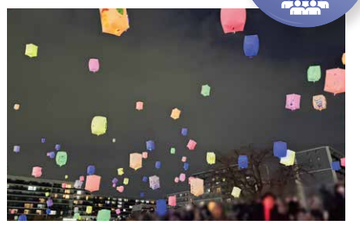
12月13日、14日の両日、第36回獨協インターナショナル・フォーラムが対面・オンライン併用で開催された。本フォーラムでは、東アジア圏の識字について、日本の識字の歴史、東アジア圏の中国漢字・漢文文化からの離脱と摂取、アルファベットなどの文字文化比較研究に関する報告があり、それをもとに活発な討論が交わされた。

コーディネーターは国際教養学部言語文化学科の川村肇教授と松岡格教授が務め、対面・オンライン合わせて、延べ316名の参加があった。

WELL FES 2025 WINTERを開催

NEWS イベント［行事］

12月20日、松原団地記念公園にて、みんなの願いを込めてスカイランタンを飛ばす「WELL FES 2025 WINTER」が開催された。草加市・獨協大学・UR都市機構・東武鉄道株式会社・トヨタホーム株式会社の産官学の5者が、獨協大学前＜草加松原＞駅西側地域の地域価値向上を目的とした産官学連携によるまちづくりに関する協定を2024年に締結し、このイベントはその活動の一つとして行われた。



第2回全国高校生英語ストーリーテリングコンテストを開催

NEWS イベント［行事］

10月19日、外国語学部主催「2025年度 第2回 獨協大学全国高校生英語ストーリーテリングコンテスト」が天野貞祐記念館大講堂にて開催された。

今年は応募総数237名のうち、厳しい予選を勝ち抜いた11名が本選に参加し、"Everyone has a story to tell"（誰もが伝えるべき物語がある）のコンセプトのもと、心温まるものからスリルのあるものまで、それぞれがオリジナルのストーリーを、表情豊かに思いを込めて発表した。審査委員長からは、言葉に命が吹き込まれたストーリーは聞き手の感情を揺さぶるものとなり、ストーリーテリングが持つ真の力を感じさせてくれた、と講評が述べられた。

審査時間を利用して実施した
一般社団法人 英語落語協会による英語落語の様子

梅澤俊浩教授が日本会計研究学会第84回「太田・黒澤賞」受賞 A.モルタ専任講師が環境経済・政策学会の奨励賞受賞

NEWS 祝

本学経済学部経営学科の梅澤俊浩教授が執筆した書籍『地域銀行の償却・引当―制度と実証』が、日本会計研究学会第84回「太田・黒澤賞」を受賞し、本学経済学部国際環境経済学科のA.モルタ専任講師が執筆した論文『"Purchase or generate? An analysis of inter-fuel substitution and electricity generation in Japanese manufacturing plants", Energy Economics, Vol.139, 107929』が環境経済・政策学会の奨励賞を受賞した。

第13回経済学部プレゼンテーション・コンテスト開催報告

NEWS イベント［行事］

11月8日、第13回経済学部プレゼンテーション・コンテストが、東棟2階4教室（予選）と天野貞祐記念館大講堂（本選）にて開催された。

今年度は開催形式を変更し、土曜日を丸一日使って、午前に17グループによる予選を開催し、午後に予選を通過した8グループによる本選を開催した。その結果、最優秀賞にはチームBAMPAKU（宮川ゼミ）「未来をつなぐ、技術と想像力―Expo2025 獨大生の挑戦―」の学生によるプレゼンテーションが選ばれた。どのグループも、技法・内容ともにレベルが高く、接戦となった。

地域総合研究所主催で公開講演会、シンポジウムを開催

NEWS イベント［行事］

10月29日に公開講演会「地方公務員アワード受賞者に聞く! 自治体広報／シティプロモーション成功のカギ」、11月5日にシンポジウム「子育て世代を呼び込むためのシティプロモーション」が、地域総合研究所の主催で開催された。両日合わせて、学生や自治体関係者を中心に約260名が来場した。

これらのイベントは、地域総合研究所が今年度から草加市と開始した「課題解決型協働研究」を契機として実施したものである。研究員および本学学生が草加市職員と協働して進めた調査研究の成果を発信するとともに、今後の調査研究につながる実践的な議論の場となった。

並木秀尊選手（東京ヤクルトスワローズ）が学長を表敬訪問

NEWS イベント［行事］

12月4日、本学初のプロ野球選手として東京ヤクルトスワローズで活躍する並木秀尊さん（21年済卒）が学長を表敬訪問し、今シーズンの報告と来シーズンの抱負を語った。

表敬訪問前には、国際教養学部言語文化学科 依田珠江教授の講義「人間発達科学特殊研究（スポーツパフォーマンス分析）」のゲスト講師として登壇した。

第9回図書館講演会「文学と装丁の楽しい関係 ―装丁と装画の醍醐味―」を開催

NEWS イベント［行事］

11月12日、第9回図書館講演会を開催した。講師には、美術ジャーナリストの小林真理氏をお迎えし、学生・教職員・一般の方など約50名が来場した。

講演では、書物と装丁・装画の歴史や役割について、様々な事例を紹介しながら説明。文豪の作品を彩った画家の装丁の仕事や名装丁の技法にも触れつつ、活字離れが進む現代において、装丁・装画が読者に作品を届けるうえで重要な役割を担っていることも解説された。

講演後は、会場に展示した講演関連の図書館資料や講師持参の資料を来場者に鑑賞いただいた。

長期留学終了者による留学成果報告会を開催

NEWS イベント［行事］

10月13日～17日、国際交流センター主催で長期留学終了者による留学成果報告会が開催された。長期留学終了者は、留学終了後の事後研修を通してまとめた留学成果に加え、自身の能力の伸長や課題、今後の学修計画などを発表し、多くの参加者にとって今後の可能性を広げる貴重な機会となった。

Dokkyo's Choice

本学の先生方が
執筆された新刊情報をお届け！

01

川村 肇（言語文化学科教授）訳、
沈 元燮著
『帝国日本の新聞人と朝鮮知識人
―同伴者・無仏阿部充家と朝鮮』
六花出版　2025年8月　本体5500円（税別）

帝国日本の朝鮮統治下で京城日報社長を務めた肥後の阿部充家。武断統治と一線を画して朝鮮文化・仏教支援に尽力し、文治政治の先駆者となる。斎藤実の政治顧問でありつつ、当局に「不穏な活動家」と見なされた阿部の軌跡をたどり、植民地支配のグラデーションの再現を試みました。その先に東アジア共存の方途を探ります。

02

E. 本橋（英語学科准教授）著
『Constructing, Reconstructing and Reclaiming Learner Identities』
Lehmanns Media　2025年9月
137,10 €

日本在住のフィリピン人1.5世代の経験に焦点を当て、フィリピンと日本における彼らの人生の軌跡と教育経験を明らかにします。参加者が日本の学校教育環境で直面した構造的・文化的差異を克服するために、自らの教育歴と学習者アイデンティティを無形資源としていかに活用したかを分析します。

03

浦部 浩之（言語文化学科教授）分担執筆
『よくわかる国際政治［第2版］』
ミネルヴァ書房　2025年9月
本体3000円（税別）

基礎理論をしっかりと押さえた上で、現代の国際政治の現状を読み解き、今後の展開を見据えるため、主要な分野とイシューを網羅。第2版では、ロシア・ウクライナ戦争勃発やイスラエル・パレスチナ紛争の再燃、第二次トランプ政権の発足等、近年の情勢変化を踏まえ、記述を最新のものにあらためました。

04

木藤 茂（法律学科教授）、
服部 麻理子（総合政策学科教授）分担執筆
『環境行政法の現代的課題』
信山社　2025年9月　本体7000円（税別）

行政法の分野で多くの研究業績を上げてこられた山田洋先生（本学元教授・一橋大学名誉教授）の古稀記念論文集。木藤教授は、行政訴訟における「公益」について、服部教授は、現代鉱業法について、それぞれが考察した論文を献呈しています。

05

田中 洋子（ドイツ語学科非常勤講師）編著、
大重 光太郎（ドイツ語学科教授）分担執筆
『動く、ドイツ ―生活と仕事を支える10の改革―』
晃洋書房　2025年10月　本体3300円（税別）

ドイツはどう動いたのか?どう動いていくのか?刻々と変わる状況の中で、人々の生活をリスクや浮き沈みからどう守るのか。時代に沿ったよりよい働き方を、対等な話し合いでつくれないか。社会国家というグランドデザインの下、ドイツの改革は生活と仕事をどう変えてきたかを描き出します。

06

松本 健太郎（英語学科教授）共編著
『観光的なものを組みなおす
文化・歴史・倫理の観光社会学』
公人の友社　2025年11月　本体2800円（税別）

今日の「観光」は経済・政治・テクノロジー・社会・文化・芸術といった諸領域を横断しながら、新しい関係性や価値を生成する動的な現象となっています。本書では、観光が社会・文化・倫理を日々「組みなおす」現実を捉えるとともに、新たな観光研究の理論を模索します。

07

浅岡 千利世（英語学科教授）共編著
『英語科教育の基礎と実践
―リフレクティブな教師を目指して―』
三修社　2025年11月
本体2800円（税別）

英語教職課程の大学生を主な対象とする英語科教授法テキスト、「英語科教育の基礎と実践」の最新版。変化著しい近年の最新情報と研究知見に基づき、全ての項目を新規に書き下ろして刷新。教科教育指導に必要な事項を簡潔に、よりわかりやすく記述しています。英語教師として成長し続ける方をサポートする一冊です。

08

田中 善英（フランス語学科教授）著、
ヴェスィエール ジョルジュ（フランス語学科専任講師）監修
『初心者のための あてはめるだけでどんどん話せるフランス語』
KADOKAWA　2025年11月　本体1700円（税別）

必ず使う88パターンと350の会話シーンで、ゼロからでも話す力UP! 本書は、「フランス語をはじめてみようかな」と思った方に、まずは練習して頂きたいフレーズを集めたものです。さまざまな場面でそのまま使えそうなフレーズを中心に88個のフレーズを収録。ぜひ、付録の音声を聞きながら、繰り返し練習してみてください。

09

田中 善英（フランス語学科教授）著
『30日で話せる フランス語ドリル』
KADOKAWA　2026年1月
本体1700円（税別）

ゼロから始めて30日間でフランス語が話せるようになる!著者による音声解説付、フルカラーのフランス語ドリルが登場。文字のなぞり書きから始めて、30日間で「仮定文」まで学べます。確認テスト・章末テストのPDFをダウンロードできるので、繰り返し手を動かして取り組めます。

ぶ-ら-り-ら-い-ぶ-ら-り

Vol.117

めくるめく貴重書・特別資料の世界へようこそ!

普段は目にすることのできない貴重書・特別資料をご紹介します。

図書館 X

貴重書・特別資料とは?

図書館では、歴史的・学術的な価値がある資料を「貴重書・特別資料」とし、候補も含め約12,400冊を所蔵しています。これらの資料は、中性紙箱等の保存容器に収納され、常時室温22℃・湿度50%の貴重書室で保管されています。また、資料保全のための撮影やスキャンによる電子データ化のほか、複製版（レプリカ）を用意しています。

貴重書室の様子

どんな資料があるの?

貴重書は、カントの『純粋理性批判』1781年初版や天野貞祐初代学長の訳で自筆書き入れのある『純粋理性批判』1921年版、スウィフトの『ガリヴァー旅行記』1726年初版等約400冊があります。なかでも獨協大学図書館が誇る2大コレクションが、「鈴木信太郎文庫」と「ドイツ表現主義文庫」です。

『ガリヴァー旅行記』

「鈴木信太郎文庫」

フランス文学者・鈴木信太郎氏（1895-1970）のご遺族から獨協大学に寄贈された旧蔵書のうち、19世紀フランスの象徴派とその周辺の詩人たちの作品および中世文学作品群の洋書5,356冊によって構成されています。代表的なものとしてポー作・マラルメ訳『大鴉（おおがらす）』1875年、マラルメ作・マネ画『半獣神の午後』1786年初版等があります。

鈴木信太郎文庫所収『大鴉』

「ドイツ表現主義文庫」

表現主義の文学作品が中心で、多くの初版本が含まれています。カフカ、ブレヒト等、表現主義文学の中枢を担った作家たちによる自筆の献辞付きの作品を多数所蔵しています。また表現主義周辺資料として、ダダイストの作品や表現主義に多大な影響を及ぼしたドイツ以外の国の作家の作品も含まれています。

ドイツ表現主義文庫所収『青騎士』

どのように利用されているの?

学術研究で必要な場合に閲覧できるようにしたり、学術的または公共性のある展覧会等に出品したりします。例えば、2024～2025年に日本各地を巡回した「ベル・エポック」展に、「鈴木信太郎文庫」の資料を貸し出しました。

貴重書・特別資料展示

図書館では随時、貴重書展示コーナーで展示を行っています。先月は「受け継がれる獨逸学協会学校140余年の歴史 ～獨協学園移管資料を中心に～」と題した展示を行いました。獨逸学協会学校が設立当時所蔵していた貴重な資料のうちドイツ語の資料、および学校設立に貢献した人々の関連資料を展示しました。次回の展示もお楽しみに!

展示風景

貴重書HPには「貴重書の概要」「利用方法」「資料の紹介」「過去の展示」を掲載しています。ぜひ貴重書の世界に触れてみてください。

貴重書 HP

2026年度 学費について

ご案内

■口座振替の方

春学期	口座振替日※	4月12日
	手続締切	3月20日
秋学期	口座振替日※	9月12日
	手続締切	8月20日

※口座振替日が金融機関休業日の場合は、翌営業日が振替日となります。

学費「Web口座振替受付サービス」のご案内

本学は原則、口座振替での学費納入です。「Web口座振替受付サービス」へご登録ください。すでに口座振替をご利用の方で、振替口座の変更を希望する場合も、改めて手続きをお願いいたします。

Web口座振替受付サービスの概要

★Web画面によるオンライン手続（銀行届出印不要）
★口座振替日:春学期4月12日、秋学期9月12日
★3月20日までにお手続きいただければ2026年度春学期の学費から口座振替となります。
★手数料は大学負担となります。

〈Web口座振替受付〉

■銀行振込の方

	春学期	秋学期
振込用紙の発送	4月1日	9月1日
納入期限	4月末日	9月末日

■修学支援新制度採用済みの方

修学支援新制度採用済みの方は納入時期が異なります。
詳細は大学ホームページをご確認ください。

訃報

生前のご功績を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。

雨宮 昭一（あめみや・しょういち）
名誉教授

2025年11月8日死去、81歳
2005年　教授
2007年　地域総合研究所長
2014年　名誉教授

2025年度最終講義（退職記念）のご案内

ご案内

定年で退職される先生の最終講義を開催します。法学部の学生以外の方々もふるってご参加ください。
◆高橋均教授「会社法 II」
テーマ：「ESG 経営における人権とビジネス
～企業の社会的責任の観点から～」
1月14日（水）1時限（9:00～10:40）西棟W-103教室

2025年度秋学期「授業評価アンケート」ご協力のお願い

ご案内

授業改善、教育改善を目的として学生のみなさんの意見を伺うため、下記のとおり「学生による授業評価アンケート」を実施します。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

実施期間：2025年12月23日（火）～2026年1月20日（火）
対　　象：全学生、大学院生
回答方法：PorTaII（「履修」>「授業評価（教育環境改善）アンケート回答・参照」）
履修している全ての科目について、回答をお願いいたします。

お問い合わせ先：自己点検・評価室事務課（6棟1階）
電話：048-946-1824
E-mail：jikotenken@stf.dokkyo.ac.jp

第59回卒業式、第48回学位記授与式

祝

■日時：2026年3月20日（金・祝）10:00～（入場開始9:30）
■場所：獨協大学35周年記念館アリーナ

・式典へはご家族及び保証人等2名まで出席が可能です。
・お車では来場できませんので、公共交通機関をご利用ください。
・式典後の各卒業生への学位記授与は、学科別に教室にて行います。
・学科別の学位記授与終了後、祝賀会を学生食堂で行います。
・卒業生は、当日学生証をご持参ください。
・学内で着物レンタル希望の場合は、獨協大学同窓会（TEL:048-941-6865）までお問い合せください。

詳細は改めてPorTaII及びホームページでご確認ください。

2025年度学友会四本部合同交代式開催

12月3日、学生センター1階雄飛ホールにて、2025年度学友会四本部合同交代式が執り行われた。この式典は2025年12月より新たに学友会各本部の正副委員長となる学生たちに、学友会会長（学長）が役職を委嘱する節目の行事。当日は前沢浩子学友会会長をはじめとする大学教職員や学友会新役員の他、来賓として一般社団法人獨協大学同窓会から髙木大介会長らが出席した。交代式では、学友会新役員に対し、前沢学長から委嘱状と激励の言葉が送られた。第62期学友会委員長の[redacted]さん（[redacted]）は、「自主的に動ける組織をつくり、学生が挑戦に踏み出せる環境を学友会から育てます」と意気込みを語った。

学友会 新役員一覧

任期：2025年12月1日～2026年11月30日

第62期学友会		第62期文化会		第62期体育会		第52期愛好会		第62期監査団	
委員長	副委員長	委員長	副委員長	委員長	副委員長	委員長	副委員長	団長	副団長
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

COVER STORY

学びと文化が融合する大講堂

獨協大学の天野貞祐記念館内にある大講堂は、学内でも象徴的な施設として知られ、多目的に利用される大規模ホールです。広々とした空間と優れた音響設備を備え、講演会、シンポジウム、クラシックコンサートなど、多彩なイベントが開催されます。階段型の客席配置により、どの席からもステージが見やすく、快適な環境が整っています。学問・文化・交流の拠点として、学生や地域の人々に親しまれている施設です。

第52回学生懸賞論文審査結果

2025年度の第52回学生懸賞論文では、9編の応募があり、審査委員会での審議の結果、最優秀賞は該当作なし、優秀賞2編、審査員奨励賞1編が選出されました。

■最優秀賞　該当作なし

■優秀賞　2編

・群馬県大泉町における多文化共生の現状と課題
～地域社会の実践と持続可能な共生社会の構築に向けて～
経済学部経営学科4年　松森 智久

・行動経済学における後悔と支払意思額 作為・不作為の心理メカニズムを探る
経済学部経済学科4年　茂木 彩花

■審査員奨励賞　1編

・獨協大学における古着販売を通じた大学生へのサステナブルファッションの普及啓発
経済学部国際環境経済学科3年　毛塚 海翔

第61回雄飛祭　開催

11月1日、2日の2日間、第61回雄飛祭が開催された。今年度のテーマは「Together as One」。学生、地域の方々、そしてご協賛いただく企業の皆様といった、雄飛祭に関わるすべての方々との一体感や共感を大切にしたいという想いが込められている。

学生はゼミナールやクラブ・サークルによる発表、展示、ステージパフォーマンスなどで、日頃の活動の成果を披露した。詳細はnote参照。

note

獨協大学学生サポート寄付金募集協力のお願い

本事業は、「よりよい社会の構築に貢献する人材」を育成すべく、国際化推進、地域連携・地域貢献、学友会活動、自律学習など、学生の活動全般を広く永続的に支援することを主眼としています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

※クレジットカード決済、コンビニエンスストア決済、インターネットバンキング（Pay-easy）、銀行振込等をご利用いただけます。

※法人の方は直接お問合せください。　所管　獨協大学総合企画課 TEL.048-946-1635

詳しくは、本学ホームページをご覧ください。
https://www.dokkyo.ac.jp/donation/

DOKKYO SDGs
Sustainable Development Goals

フードパントリー事業者へ防災食品を寄付

12月4日、本学から県内フードパントリー事業者へ防災食品1,600セットを寄贈する贈呈式を学内で実施。本学の防災食品はフードロス削減のため、定期的に学生や教職員に配布して防災意識の向上に役立てている。今年は学内配布に加え新たな活用方法として、フードドライブ活動※への寄付も行った。

贈呈式には本学から前沢学長をはじめ教職員が参加し、フードパントリー事業者の代表3名の他、本学とSDGsパートナーシップを結んでいる草加市からの来賓、主催者である明治安田生命保険相互会社の関係者も出席。寄付した防災食品は埼玉県東部のフードパントリー事業者等12団体へ配付された。

※この活動は埼玉県との協働事業として明治安田生命保険相互会社が行っている。

獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2025～Winter～”開催

12月1日～6日、獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2025～Winter～”が開催された。本イベントは、2016年度の冬からはじまり、2017年度から夏と冬の年2回、1週間ずつ開催され、講演会や地域の物産展、地元野菜を使ったピザづくりなど、地球の課題を考え、行動に移すきっかけとなる企画が実施されている。

今年、本イベントの企画の1つとして開催された講演・討論会「第11回 フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」では、本学と福島県田村市が連携して実施してきた「復興知」事業の5年間の成果報告として、16名の学生からの7つの報告とパネルディスカッションが行われた。

開催10周年を迎える2026年度には、ぜひ多くの企画が集まり、多くの学生が参加することを期待したい。

イベント概要

編　集　総合企画課（中央棟2階）　TEL.048-946-1635　kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者［五十音順］　大久保 賢斗（営4年）　川合 くるみ（営2年）　土屋 日花莉（律4年）　渡邊 帆風（営4年）　片柳 月奈（言4年）　島田 瑠里香（済4年）　原 友里恵（英4年）　金田 夏実（律4年）　土田 優衣（営4年）　柳澤 真理子（営4年）

略称表記（学科）独…ドイツ語／英…英語／仏…フランス語／交…交流文化／言…言語文化／済…経済／営…経営／環…国際環境経済／律…法律／関…国際関係法／総…総合政策

獨協大学 DOKKYO UNIVERSITY
https://www.dokkyo.ac.jp/

次回は5月号の予定です

©獨協大学2026／獨協大学〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1／年4回発行